

閔澤明清朝鮮漁業取調_{トシテ}出張之件

[illegible]

251 / /

閩澤明清朝鮮漁業取調トシテ出張之件

月	日	番	號	自	誰	至	誰	大	意
廿五年十一月	廿六	送	二六	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十一月	廿七	送	二七	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十一月	廿八	送	二八	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十一月	廿九	送	二九	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十一月	三十	送	三〇	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	一	送	三一	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二	送	三二	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	三	送	三三	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	四	送	三四	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	五	送	三五	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	六	送	三六	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	七	送	三七	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	八	送	三八	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	九	送	三九	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十	送	四〇	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十一	送	四一	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十二	送	四二	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十三	送	四三	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十四	送	四四	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十五	送	四五	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十六	送	四六	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十七	送	四七	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十八	送	四八	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	十九	送	四九	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十	送	五〇	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十一	送	五一	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十二	送	五二	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十三	送	五三	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十四	送	五四	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十五	送	五五	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十六	送	五六	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十七	送	五七	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十八	送	五八	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	二十九	送	五九	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス
廿五年十二月	三十	送	六〇	外務省	外務省	外務省	外務省	閩澤氏	取調トシテ出張ノ旨ヲ示ス

外務省

· 127

[illegible]

古下平井

百善孝為先

生石山
月子抄
抄如雲
尺

送第
六
號

送第

號

總行書字句三歌又所

如仍欲金其業

送弟

○ 號

惟可入地能合中

懷素書之至明清

元覽書名錄
一、朝野自誣案

石洞多松栢其下月如白如雪其下松栢之

以自出上諸使堂中將以折旋之布一舞之

外務省

九

通商局

受第一五二號

五

少年富貴文

第七回

宣統二年十二月廿三日

在朝鮮國金山港

日本總領事館

外 市 院 主 林 量 俊

南唐書



受第三五二號

軍修鳥西沙州紅一件

始信是西之唱雲板之事達西之哀深吟信也

次官



在朝鮮國仁川日本領事館

形者多に西希トシテ爲學する者多し是をハタと外衛門主事李鑑
 相と因希部の人一名ヲ乗名アリ云ふは嘉善李万陽州是ハ今ノ後陽
 才服有今ノに候ハ先ノ所安島ト云フ者ナリ陽州西南岸ノ南岸
 といふ事由牛島ト云ハ夫ノ巨文島ト云フ先ノ名也ト此ノ因先
 ノ國津の所一行上陸ト云ハ其ノ南國南海岸津島と云ハ津
 島凡ノ月ノ邊ノ島也ト陽州主事云此ノ所ト云ハ此島西島ト云
 可ト云今ノ年一月廿日候所ナリ

卷之五

新學堂

九十七

廿六年二月一日

廿六年二月一日接受 主管 政務局



發給

九

第一一三五號

次官

先キニ元農商務技師薩澤明清ヲ乗セシ海州及
附近諸所ニ航行シタル島海艦ニ乗ル是等ノ入港改メ
由ニ有リタルハ該艇ハ今般食料積込ノ者ノ對州ハ
廻航改メ支那ヲ以テ多クシテ支那ノ有無ニ對シ電報
ニテ知合有リタルハ古ク支那ニ極平穩ノ有リタル
ノ軍艦ノ數多ク有リタルハ支那ノ事無クハナラス
日數ニ短カレルヘトモ存シ付支那ノ事ハ昨ハ電報
ノ旨該艇ノ知合改メ不日對州ニ廻航ニ改メタルハ
合送ニ中ニ在リ

明治廿六年一月廿三日

臨時代理公使 杉村春樹

外務大臣陸奥宗元殿

在朝鮮國日本公使館

第十
一〇

送官

次官

送官

1010

二十六年二月三日達

明治廿二年二月乙卯起草
同 年 二月 三日發遣

政務局

主任

送第一七號

海軍省長官に礼京範後

和歌山長崎五多支

廿六年二月四日達

外務省

帝玉軍艦多海艦食品積込之為

對船へ廻航之件ニ付在船解村臨時

代理公使より要之通リ報告請求後係

及念至多送付也

外務省長官

九十七

在朝鮮元山港本日領事館

廿六年二月十日接受 主官 通商局

公第 十一 號

第三五二五號

元山多船着枝所漸澤明清音國漁業
取浦ノ次本月二日音山ヨリ伊勢凡々搭し来
着本日同船便ヲ以テ音山ノ向テ去茲改并
地候 為念ナ道也

元山

明治廿六年二月四日 領事官 官本 羅



外務官 林 量 敬

廿六年二月十日接受 主官 通商局

九十七

朝鮮國益山港領事館

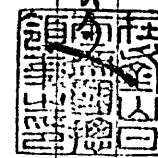
廿六年三月廿四日接受 主官 通商局

公第 四十九 號

第三四九五號

本國沿海水産業之實地取調ニあリ
東ニ出港スル船ノ實情取調ハ
本月六日 右港板橋ノ便船ニ搭乗
シテ元山ニ向テ出帆スル事
ト成リ

左官 通商局 主官 羅



外務官 林 量 敬

追テ同氏ノ搭乗大段ニ見時着立ス
ル候ニ布之

廿六年四月四日接受 主官 通商局